

## 令和5年度 県立並木中等教育学校自己評価表

目指す学校像	1 体験・経験を重視した学習活動を通して広く人間教育を行う学校 2 筑波研究学園都市の一角に位置するという地域性を生かし、大学、研究機関、保護者、卒業生と連携して科学教育を行う学校 3 外国からの研究者・留学生、インターナショナルスクールとの交流や海外語学研修などを通して、国際教育を行う学校			
三つの方針	具体的目標			
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	協働と連携を通して磨いた探究的・創造力を生かし、次代を牽引するグローバル・リーダーの育成		
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	中高一貫校の蓄積と実績を基に、難関大学や医学部等、多様な志望に対応できる、多彩なカリキュラムを通じた進路実現		
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	様々な分野に関心をもって他者と関わる中で、自分の見識をより広げ深めていこうとする探究心・向学心のある生徒		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況	
本校では、中高一貫教育の利点を生かし、体系的なカリキュラムを構築し、「アクティブ・ラーニング」を積極的に取り入れた授業実践を行っている。生徒が学習活動の中で、考えを表現しあったり、納得解を求めて議論したりすることが増えた。その結果、生徒の発達段階に応じた「論理力」や「表現力」の高まりが見られた。理数探究カリキュラムが充実し、生徒が学びを深める場が授業の中に設けられている。また、外部講師を招いた課外活動についても、生徒の関心を掻き立てている。これらの場の提供が、生徒の学びに向かう姿勢を改善している。中等教育学校の特性をさらに生かすためのカリキュラム・マネジメントを行い、「学びのロードマップ」を各教科・領域等で大いに活用し、「確かな学力」の育成に向けた授業改善に努めたい。また、SSH事業第5期に向けて、学校設定科目「課題探究」を中核とした「探究力・論理力」のさらなる育成を図っていききたい。	1 新時代に対応した学習の見直し（授業改善）	○協働的な学びを取り入れた授業を実施する。 ・イノベーション力を強化するための弁証法的対話を授業に導入する。 ・新学習指導要領に即した観点別評価の在り方を確立する。 ○基礎基本を活用し、思考・判断・表現を重視した学習を展開する。 ○「生徒による授業評価（授業満足度）」肯定的評価 80%以上	A	
	2 志高く、進路実現に向かう生徒の育成（キャリア教育）	○体験活動を充実し6年間を見通した体系的なキャリア教育を展開する。 ○生徒が自らの可能性に挑戦する進路指導を実践する。 ○キャリアカウンセリングを実施し、生徒の意思を汲んだ相談を実施する。	A	
	3 SSH事業第3期目のさらなる充実（特色ある教育活動）	○学校設定科目「課題探究・理数探究」を中心としたカリキュラム開発を行う。 ○地域、研究所、保護者、卒業生と連携した探究力・論理力の育成を図る。	A	
	4 6年間を見通した校内体制の確立（教育活動の体系化）	○6年間の教育活動の体系化を図り、内容を精選する。 ○カリキュラム・マネジメントにより教育活動を精選し、校内体制を確立する。 ○医学コースカリキュラムの検証を行うとともに課題をまとめる。	A	
	5 業務内容の見直し（働き方改革）	○すべての教職員の超過勤務時間を1箇月45時間 年間360時間以内とする。 ○業務の精選を図ると共に会議の持ち方を工夫する。	B	
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
1 校務運営部 (教務)	SSH3期目の目標を達成するための方策を実施しながら、授業時間の確保と行事の調整を行うことで、円滑な学校運営に努める。	SSH関連の講演会等を総合的な学習の時間に位置づける等、年間を見通した計画的な授業時間確保を行うため、学校行事や年次行事の調整を行う。	A	B 次年度（学期）への主な課題 行事の復活と見直しを両立させる 教科「理数」との兼ね合いを意識する 企画研究部と連絡を密にする 今年度は何度かバランスを欠いてしまう部分があった。次年度は改善したい。 評価方法の変更に今後も対応したい 更に意見を検討できるシステムを構築する 継続して実施 改善の必要な点があり、継続して取り組む 継続して実施
		「課題探究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の授業を効果的に実施するため、行事・日課等の計画や調整を行う。	B	
		SSH3期の目的達成と4期を目指し、学校定科目の新設・改良を含んだ教育課程全般を見直し、学校としての方針を明確化できる体系的なカリキュラムを作成する。	A	
	行事の精選と授業時間の確保に努め、生徒の可能性を引き出す質の高い授業を展開できる学習環境・システムを整備する。	現行のA週B週C日課システムの利点を最大限に活かせるような、計画的運用によって授業時間の偏りを減し、バランスのとれた学習進度を維持できるよう、曜日変更や行事の調整を行い、授業改善の一助とする。	B	
	カリキュラム・マネジメントにより、目指す生徒像に適合した生徒を育成するため、6年間を見通した校内体制の充実を図る。	観点別学習状況評価について理解を深め、生徒個々の学習方法のチェックに還元できる評価方法を研究する。 保護者や地域に対するアンケートを実施し、学校外からの意見も取り入れていく。 医学コースの円滑な運営に努める。	A B A	
	教職員の意識改革を図るとともに、一人ひとりの業務内容を見直し、「働き方改革」を推進することにより、教育水準の維持向上を図る。	「働き方改革」を推進し、教育水準の維持向上を図るうえでも、行事の精選を行ない、業務内容を削減する。 それぞれの校務分掌や年次において、通年で行ってきた業務を検証し、業務の効率化を図る。	B A	
(総務)	本校の目指す生徒像及び教育活動の活性化を念頭に置いた選抜を行う。	入学者選抜内規を検討する。	A	A 次年度も適切に対処する 次年度も負担軽減に努める 継続して実施 レイアウトの刷新等に取り組む 次年度はより活発に更新を行いたい 行事の復活と見直しを両立させる 映像配信のための予算要望をする
		効率的かつ正確な入試事務処理が行えるよう運営計画の工夫改善を図る。学校委員会担当者の負担軽減と業務の細分化を図る。	A	
	多様な手段により、本校教育活動についての広報活動をより一層充実させる。	児童・保護者目線での学校説明会を企画する。日頃のアクティブ・ラーニングの実践や研究を生かした学校公開等の企画・立案を検討する。	A	
		生徒の躍動感をアピールする学校案内パンフレットやリーフレットを作成する。	A	
		本校の教育活動を外部に発信するツールとして積極的にHP（並木ブログ）の更新を図る。	B	
儀式的行事を円滑に運営する。	始業式、終業式、入学式、卒業証書授与式、修了式等の企画・運営を円滑に行う。	A		
	校内の放送機器等の整備拡充を行う。	B		
(渉外)	渉外活動の充実と会員同士の親睦を図る。	P T A総会、本部役員会及び合同役員会を企画・運営する。	A	A 継続して実施 継続して実施 継続して実施 行事の復活と見直しを両立させる
		県高P連及び県西高P連との連携・協力を図る。	A	
		年次委員会、広報委員会、研修委員会、生徒指導委員会を開催する。	A	
		かえで祭（文化祭）、ウォークラリー等の学校行事へ、状況に対応しながら参加協力を考える。	A	
2 企画研究部	6年間を見通した「課題探究」の指導体制の確立を図る。	生徒一人一人の課題探究の充実、及び指導する教員の指導力の向上を図り、年間を通して「課題探究」の授業の充実を図り、6年間を見通した「課題探究」の指導体制の確立を図る。	A	A 1～3年次のミニ課題探究を研究する 理科の授業における弁証法的対話の活用を研究する 順調に進んでいる
	SSH事業第3期目の推進及び第4期の研究開発課題の先行実施を図る。	中高一貫教育を活かした探究力・論理力を育成するカリキュラムの開発と教材・指導法の実践的研究の充実を図る。また、理数系グローバル・リーダーの育成に向けて、つくば市の研究機関との連携を強化し、STEAM教育の推進を図る。	A	
	ユネスコスクールとして国際教育の充実と各種海外研修の充実を図る。	ユネスコスクールとして日々の授業や様々な国際的な体験を通じ次代の日本・世界の発展を担う「人間力」を備えたグローバル・リーダー育成を図る。	A	

## 別紙様式2 (中等)

(探究)	課題探究の運営方法・普及・評価を改善し、発展を図る。前期課程ミニ課題探究の運営方法の系統化を図る。	①令和6年度の「理数探究」導入に向けて準備する	A	A	内容の厳選		
		②他校に課題探究のシステムを普及する	A		さらに関係する学校を増やす		
		③課題探究の評価を開発する	A		さらに評価を検討する		
		④前期課程ミニ課題探究のカリキュラム開発を行う。ミニ課題探究の運営方法を系統化し、6年間の一貫した課題探究指導体制を確立する。	A		1～3年次の内容を厳選する		
(SSH)	SSH第3期の研究開発課題に対する取組についてまとめ、評価を行うとともに、4期目に向けた準備を行う。	①弁証法的対話を用いた授業を研究する。	A	A	理科の授業での弁証法的対話の活用を研究する		
		②生徒発信プロジェクトを推進する。	A		順調に進んでいる		
		③SSH保護者サポーターの活動を推進する。	A		順調に進んでいる		
		④HP作成等を通して、本校のSSH活動について情報を発信する。	A		SSHのページの充実		
		⑤中間評価に向けて準備を行う。	A		数値を用いた評価を検討する		
		⑥4期目に向けた計画づくりを行う。	A		順調に進んでいる		
(SGS)	世界の状況(パンデミックなどによる海外渡航困難など)に柔軟に対応しながら、グローバル・リーダー育成のための国際教育活動をSSH事業と絡めて企画、実施する。国際教育・国際交流など特色ある学校づくりに貢献する。	①キャリア教育の視点や、外部機関との連携を踏まえて、各年次に最もふさわしい国際教育に関わる行事を提示し、実施する。同時に希望者対象の国際教育行事を充実させる。	A	A	継続して実施 生徒の声を取り入れた運営を試みたい。		
		②本校生に適切な公的・民間機関による情報を提供し、生徒に国際交流や、国際理解、留学機会を提示する。同時にニュージーランド短期語学研修はじめ、海外長期留学から帰国してくる本校生徒がもたらすグローバルな経験を学校全体で共有できる機会を設ける。	A		継続して実施 外部の機関と提携する企画を継続するとともに、新規の国際機関を開拓したい。		
		③ユネスコスクールとしてESD教育への積極的な取り組みと普及を行う。	A		ESD(持続可能な開発のための教育)を継続実施しながら、新しい試みを加える。		
3 学校生活部 (生徒指導部)	基本的生活習慣を育成し、他者との協調性を養い、社会人の1人として自律できることを目指す。	自制を心がけ、基本的生活習慣を大切に、自主的に「挨拶をする・装を正す・時間を守る」ことを意識して生活する。	A	A	校内では概ね良好であった。校外での生徒の様子、保護者アンケートにあった内容への対策を行うこと。		
		学校生活を通して、かけがえのない、個性豊かな自分やみんなを大切にする心を育む。	A		SHRや学級活動において、相互理解や共感的な人間関係の育成をさらに進める必要がある。		
		マナーアップ活動を通して、社会に生きる一員として自覚ある行動を心がける。	A		保護者や外部機関と連携したマナーアップ運動を通してブラッシュアップを図ることができた。		
	保護者・関係諸機関との連携を密にし、問題行動の未然防止を目指す。	カウンセリングマインドをもち、生徒一人ひとりの理解に努める。	A		生徒のもつ課題を年次会で積極的に話題にし、解決に向けてチームで取り組んでいる。SCとの連携、外部機関との連携も進めている。		
		保護者、警察等の関係諸機関との連携・協力を図り、非行防止教室、携帯電話安全利用教室等を開催し、よりよい生活のあり方を考える機会を作る。	A		外部機関と連携して講座を年次ごとに開催することができた。		
		学級活動やリーフレットを活用して、事故、いじめ、問題行動の未然防止に努める。	B		いじめ防止のリーフレットをSHR等で取り扱い、必要な生徒に渡すことができた。		
	安全教育の推進を図り、自己防衛意識・自己管理の育成を目指す。	警察や地域ネットワークと連携し、登下校時の立哨指導・巡回指導を計画的に実施する。	A		交番との情報交換、駅周辺のコンビニエンスストアと連携して、生徒見守りネットワークを利用して生徒の様子を確認している。		
		自転車安全運転教室、登校手段別集会、マナーアップ活動を通して、安全な自転車通学や公共交通機関の利用ができるよう図る。	A		つくば警察署と連携して自転車安全運転教室を行った。学校や駅周辺での警察官や保護者と連携した立哨指導や巡回指導を実施し、地域と連携して取り組めた。		
		生徒会と連携し、自転車点検やポスターでの注意喚起を行い、登下校の見直しを図る。	A		生徒会と連携し、自転車点検や登下校での安全運転を呼びかけた。		
	(教育相談)	心の問題を抱えている生徒の早期発見と早期対応を図る。	年次や保健室などと情報を共有し、休みがちな生徒に対して、チーム支援の充実を図る。校内研修会を実施する。		A	A	保健室との連携、年次主任会議などを通して早期発見を図る。早期対応の一つとしてSCの活用を勧め、チーム支援の体制をとれるようにする。
		年次・保護者との連携強化を図る。	生徒へのアプローチについて教育相談的視点からのアドバイスをする。保護者との連携を密にする。場合によっては医療機関等の紹介をする。		A		保護者からの相談をしっかりと受け止め、共感的理解につとめる。SCへ繋いだり、SCの助言を元に医療機関を紹介していく。
		スクールカウンセラー(SC)の積極的活用を図る。	カウンセリングを受ける生徒に対して、学校生活の中で支援を図る。 カウンセリングにおいて、SCと年次・担任・保健室等の間の連絡調整を支援する。		A A		カウンセリング事前の情報収集、事後の情報と対応の共有を今後も丁寧に行う
(保健安全)	生徒の健康・安全・健康教育の推進に努める。	健康診断は校医と相談し、合理的且つ円滑に行い、要治療者については早期治療を徹底する。	A	A	継続して実施		
		日常的な保健室利用生徒について、年次・担任・保護者との緊密な連携を図る。	A		継続して実施		
	校舎内外の美化と安全を図る。	年次縦割りの清掃班による清掃活動の充実化を図る。	A		継続して実施		
		ワックスがけおよび清掃強化週間を実施し、校内の美化に努める。	B		後期生の教室のワックスがけも前期生の教室のように無くしていきたい。		
	危険箇所の点検を行ない、改善・修繕に努力する。	A	継続して実施				

## 別紙様式2 (中等)

		災害時等の対応マニュアルの見直しを行い、全職員に周知徹底する。	A		継続して実施
		避難訓練を年2回実施する。訓練に際しては、地域との連携を図る。	A		継続して実施
(食育)	正しい食事のあり方や望ましい食習慣を身につけ、食に感謝し、楽しく食事ができるようにする。	全職員の共通理解のもと、安全と食育指導上、適切な指示をしながら給食指導を行う。	A	A	担任の先生と連携し、アレルギー対応希望生徒の対応を慎重に進めていきたい。栄養教諭の給食指導も継続したい。
給食係や給食委員会による常時活動の活性化を図り、給食の円滑な配膳や片付けを行えるようにする。		A	食中毒、異物混入、衛生管理等、未然防止に向けてマニュアルに沿った対応を連携して取り組んでいきたい。		
職員も教室で生徒とともに一緒に給食を食べながら、適宜、食事のマナーの指導、栄養や食文化の理解、望ましい人間関係の育成を図る。		A	コロナ対策とインフルエンザ対策をふまえて給食指導を充実させていきたい。		
4 特別活動部	部活動の活発化を図る。	中等前期・後期課程の生徒を含めた中高6年間一貫の活動方法を、前年度に引き続き模索する。	A	A	前期課程、後期過程での合同練習を実施している部活動もあり、ルールや場所の問題が障壁になっている。
		部活動における質の高い活動を推進し、個の育成と集団のレベルアップを図る。	A		部活動改革により、数多くの制限がある中で、効率的な活動方法を考えていきたい。
		部顧問の適切な配置、部活の数の適正化を図り、学校全体としての指導体制をより充実させる。	B		前期・後期、及び主顧問と副顧問の連携を充実させ、より良い指導体制を築いていく。
	主体性のある生徒会活動を推進する。	生徒会役員が、主体性を持って生徒会活動を進められるようにする。	A		どのような活動ができるか、一般生徒からの意見も取りまとめながら、話し合いを進めていく。
		中等前期・後期課程の生徒を含めた生徒会活動のあり方を、前年度に引き続き模索する。	A		縦割りの生徒会活動を充実させるための方策を模索する。
		生徒会役員選挙に多くの候補者が立候補するよう生徒の意識を高揚させる。	A		各年次担任にも協力を要請し、意識の高揚を図る。
	学校行事の活性化を図る。	かえで祭の実行委員を中心に、生徒による質の高い企画・運営力の向上を目指す。	A		各部署において工夫を図りながら実施し、成功させることができ、今後も実施方法を模索していく。
		前期・後期課程の生徒が一体化したかえで祭を作り出す。	A		各年次の特色を活かしながら、より一層、充実したかえで祭を作り上げていく。
		前期・後期課程の生徒が主体的に企画運営し、スポーツデイを成功に導く。	A		生徒主体で、運営・実施できるように今年度の反省をいかにしながら、来年度の計画(実施日)を立てていく。
		WRの実行委員を増やし、生徒による企画・運営力の向上をめざす。	A		実施継続を考えながら、道路事情を考えコースの変更等を考える。実行委員の役割を周知徹底させる。
	ウォークラリー(WR)を通じた心身の健全な育成と集団意識の高揚を図る。	体育授業での歩行練習で規範意識や生徒の体力の増進に努める。	A		WR本番の天候や歩行の安全を考えた歩行練習と体力の向上に努める。
		生徒自ら集団歩行・行動の大切さを身につけ、お互い協力して歩行できるよう促す。	A		お互いを注意し合えるような、安全意識と規範意識の高揚を図る。
		上級生から下級生まで全校生徒が一つになり行事の成功に向かうよう働きかける。	A		全校生徒の規範意識を引き締め、安全で一体感のあるWRを作りあげていく。
	キャリアパスポート事業として、人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力等を高める。	学級活動や部活動等で人間関係を養う能力を形成する力を目指す	A		人間関係を養う能力を形成する。
		委員会活動や実行委員会活動等でさまざまな課題を発見分析し、適切な計画を立ててその課題を処理解決することができる能力を身につけさせる	A		適切な計画、さらに解決能力を身につけさせる。
	5 学習進路部 (進路指導)	6年間を見通したキャリア教育を促進し、生徒が可能性に挑戦する進学指導を実践する。	年次に合わせた進路行事の体験を通して職業観や進路意識を高める。		A
進路だより・進学要覧を作成し、ガイダンスとあわせて、生徒への啓発と保護者への情報提供を拡充する。			A	質の高い情報提供を継続したい。	
個人面談の充実により生徒に高い志と進路目標を持たせ、学習時間の向上を図る。後期課程では希望者課外において学力の定着を図る。弾力的運用の実施で授業の充実を図る。			A	学習の内容についても質量ともににより向上させたい。そのための教員による生徒への働きかけや仕掛けを充実させていく。	
模試学力分析会・進路研修会・学習状況調査により生徒情報を共有し、面談力の向上を図る。			B	教員の研修の充実を継続する。	
(授業研究)	教員の学習指導力のレベルアップを図る。	毎月の授業参観(ちょっと見週間)を実施する。クロスカリキュラム授業、ICT活用授業、T0授業をとりいれた授業公開(授業の並木3days/授業改善プロジェクト)を実施する。	B	授業の並木3daysを実施し、授業公開や研修を充実させた。公開や研修することへの教員の負担感を減らす方法を検討する必要がある。	
		教師向け研修会・外部教員研修参加の促進により学習指導力の向上を目指す。	A	コロナ禍で研究会開催方法が変化し、オンライン中心になったことを利便性が高くなったと捉え、今後も参加を促していきたい。	
(学習環境)	学習環境を整備する。	ブライトホールの整備を進め、利用を促進する。	A		平日夜の教員待遇改善策として、日直制の導入を来年度から実施することにした。利用者増加策の継続・促進。

## 別紙様式2 (中等)

		進路指導室の整備を進め、利用を促進する。	A		現在のレベルを維持したいが、ブライトホール同様、平日夜の教員待遇改善が困難。
		赤本の充実を図る。	A		利用者も多いため、予算の続く限り現在のレベルを維持したい。
(図書館運営)	図書館運営を充実させる。	図書の実用を図り、図書室利用を促進する。	B		主に前期生の利用が中心だが、開館を維持するのが困難なため、開館方法についての検討が急務。
6 PCシステム	ICT機器を整備する。(特にハード面)	教室、特別教室等のPCリース更新をスムーズに行う。	A	B	端末の故障への準備と対応。リースされるPCの使用方法について検討。
		校内ネットワーク、および授業用端末のプロジェクター等への投影環境を整備する。	B		天吊り設置のプロジェクターの老朽化への対処。
		GIGAスクール構想の円滑な実現に向け、校内環境を整備する。	B		GIGA端末の故障への対応と来年度以降の端末更新に備える。
	充実したホームページを再構築する。	B	情報が偏っており、利用者に見やすいPRになるよう管理職や各担当と相談。		
7 学校事務	教育環境及び生徒の学校生活環境を充実する。	教育活動が円滑に行われるよう、設備・備品を整備する。	B	B	引き続き限られた予算の有効活用を努める。
		生徒が快適かつ安全安心に学校生活を送れるよう、校舎内外の環境美化に努める。	B		
8 1年次	学習習慣を確立し、主体的に学習に取り組む生徒を育成する。	「わかる授業」を心がけ、授業や課題を通し、基礎・基本の定着を図るとともに、生徒が主体的に学ぶことができるように、「学び方」についての学習指導を行う。	A	A	学習に主体的に取り組むことができている。協働的な学びを各教科で取り入れた授業展開で、生徒同士で課題解決しつつ「学び方」も身につけることができた。
		フォーサイトの活用を通し、見通しをもって自主的に学習に取り組む態度を育成すると共に担任・年次主任による面談を定期的に行い、個に応じた助言や支援を行う。	B		フォーサイトの活用や面談を通して、学習・生活習慣の確立に向けて個に応じた助言や支援を行うことができた。
	礼儀正しく、他者と協働することができる生徒を育成する。	学級活動や道徳の授業の他、日常生活を通して、礼儀正しく生活する態度と互いの人権を尊重する態度を育てる。	A		「社会に出てから困らない」を合言葉に、礼儀、人権尊重を日常での指導で意識づけてきた。
		きちんとした返事やあいさつができ、お互いに声をかけ活動できるような集団づくりを心がける生活指導を行う。	A		あいさつ運動を行い、あいさつが当たり前になる生徒の育成を図った。
	主体的に考え、判断し、行動することができる生徒を育成する。	各活動を計画的に実施するとともに活動方法についての助言し、学習・学級活動・学校行事を生徒主体で行うことができるようにする。	A		宿泊や集会などの年次行事を生徒主体で行うことができた。また、ふり返りを大切に、諸課題を年次経営や学級経営に生かすことができた。
		各学習活動で探究学習を実施し、自分で問いを立て、考え、多角的なものごとを見る視野をもち、納得解を出せるように支援する。	A		問いから世界を広げる探究活動を行い、多角的な物事の見方や考え方を身につけることができた。この探求をベースに次年度につなげていきたい。
9 2年次	各個の実態を見極め、「基礎からの発展」と「基礎の補強」に対応する、柔軟な学習指導を充実させる。	学習意欲を継続するための授業展開の工夫に努めると共に、学習意欲の減退した生徒に対する具体的で連携的な指導を実施する。	A	A	基礎期から充実期にかけて、個に対応した学習支援に努める。
		自身の進路の枠組みや方向性を意識し、夢をもって生活するための生きたキャリア教育を推進する。	A		自己実現に向けて、より具体的な進路や特色ある進路について理解を深めていきたい。
	道徳的な価値観を育成し、集団生活や礼儀作法について自ら考え、行動することのできる指導・カリキュラムを充実させる。	時と場にふさわしい言動をとることができるように、よりよい人間関係を構築すると共に、基本的な生活習慣の確立に努める。	B		TPOにふさわしい言動と友達に対する適切な声かけができるように指導していく。
		道徳の時間を通して、集団生活の在り方の思考と自己受容する力の育成を計画的に実施する。	A		構成的グループエンカウンターやロールプレイングなどの活動を増やし、自他ともに受容する力を身に付けさせたい。
	これまでの経験を生かして後輩を先達し、行事や学校生活に目的と責任をもって取り組む、心身共にたくましい生徒を育成する。	自ら計画性をもって諸活動に自主的に取り組むことのできる生徒の育成に努める。	B		継学習や生活を常に振り返り、自らの計画を調整できるようにする。
教育相談の充実を努め、定期的な面談・懇談に加えて日々の雑談も大切にして、学校生活へのエネルギーを一人一人が蓄積できるようにする。		A	生徒一人一人の会話や悩みを職員間でも共有することで、学校全体で生徒に寄り添っていききたい。		
10 3年次	自ら課題を見つけ解決する能力をもった生徒を育成する。	自分の考えを伝えたり、友達の意見を聞いたりする場面を多く設定し、自ら考え積極的に活動できる授業を行う。	A	A	引き続き、授業において対話的な学びを通じて考えを深める機会を多く設けていく。
		総合的な学習の時間や年次行事において、ICTを積極的に活用したり、効果的活用を工夫したりして、生徒の思考力・判断力・表現力等の能力を育てる。	A		個人所有のタブレットを有効活用することで、多用途において学ぶ環境を整える。
	社会貢献できる生徒を育成する。	進路指導、大学見学、広島京都平和研修、講演会などの体験活動を充実させ、4年後を見通した発達段階にあったキャリア教育を展開する。	A		様々な機会を通じて、進路選択を自分事として捉えられるように意識付けする。
		様々な活動に実行委員を立ち上げ、生徒企画・運営の活動を多くすることで、人の役に立つ経験をさせ、主体性、計画性、実践力を育てる。	A		一つの活動の中で、全体を把握して動き、かつ、個々が生きるリーダーシップのあり方について考えさせる。
	前期課程最高年次として、他の年次の模範となる生徒を育成する。	学校のルールや、公共のマナーなどに対する意識を高める声かけを行い、実践・振り返りをする活動を取り入れる。	B		生徒個々の意識を高めていく。後期生として、前期生の模範となる振る舞いを身につけさせる。

## 別紙様式2 (中等)

		計画性への意識を高め、実践できる生徒を育成するために、自分の生活を調整できるように指導し、支援を行う。	A		個々の学習の記録についてはデジタルツールの使用を継続し、生徒・教師とも無理なく続けていけるような方法を模索する。		
	仲間と切磋琢磨でき、自立した生徒の育成	AL 授業や道徳、学活の充実を図り、仲間がいるからこそ得られる新たな考え方や視野を広げ、自分を成長させてくれる仲間への感謝の気持ちをもてる生徒を育成する。	A		引き続き、授業において対話的な学びを通じて考えを深める機会を多く設けていく。		
		前期課程最高年次として、部活動の中心的な立場としての意識を高めさせる。積極的な参加を促し、自立した生徒を育成する。	A		後期生としての自覚を持たせ、自らの向上とともに、後輩への適切な支援を促す。		
11 4年次	基本的生活習慣を育成する。	挨拶を励行し、清潔感のある身だしなみや適切な言葉遣いを意識させる。	A	A	挨拶については引き続き特に指導していきたい。		
		基本的生活習慣を身につけさせ、欠席や遅刻をできるだけしないよう健康的な生活を送るよう促す。	A		昨年度から全体的に大きく減少している。引き続き指導していきたい。		
		心の問題を抱える生徒に対し、年次の教員全員で適切な支援を行う。	B		一部の教員に負担が偏らないような体制を作っていきたい。		
		各種行事に生徒が主体的に取り組むよう促すことで、心の成長を促す。	A		行事については生徒は概ね前向きに取り組んでいる。		
		PCを活用し、情報の共有を適切かつ効率的に行うことで自律的な活動を促す。	A		個人端末を有効利用できているが、放課後や休み時間等の使用についてはルールを徹底させていく必要がある。		
	自律した人格の育成と学習の習慣化および基礎学力の育成を図る。	5・6年次の取り組みを参考にし、大学共通テストへの対応を念頭に、思考力・記述力を高める授業スタイルを積極的に取り入れ、応用・発展へと広がりのある授業を展開する。	A		各教科で思考力・記述力の育成に取り組んでいる。		
		授業や週末課題を通して高い目標に結びつけられるような学習課題を与え、課題に対して自ら考え抜いて取り組む力を育成する	A		課題ありきの学習ではなく、自ら学ぶ自立した学習者になるために引き続き指導していく必要がある。		
		小テスト、週末課題、模試等を活用しながら、学習の習慣化および学力向上を図る。	B		学習習慣が身に付きつつある生徒がいる一方で、依然として考査中心の学習になってしまっている生徒もいる。		
		学習過程の蓄積、学習時間の記録等に ICT を活用し、学習量の増加を促す。	A		記録期間を限定して設けることでメリハリのついた指導ができるようになった。平均学習時間も昨年度と比較して大きく増加した。		
		個人面談を複数回実施し、生徒の学習状況把握に努めるとともに、適切な助言を行う。	A		担任を中心に十分な回数の徒面談を実施することができた。		
	自己理解と進路意識の高揚を図る。	LHR、総合的な学習の時間等を活用して、生徒全体かつ個々に対して進学に関するアドバイスや情報提供に努めることにより、文理選択や難関大学への進学を早期に意識させる。	A		進学要覧や合格体験記を使用したり、年次集会やキャリア教育を実施するなど、充実させることができた。		
		進路講演会、大学見学会、OBOGガイダンス等により、自己理解と進路意識の向上を図る。	A		いずれの行事についても生徒の進路意識の向上に高い効果を与えることができた。		
		進路情報誌を活用して進路への興味関心を高め、自ら情報を収集する生徒を育成する。	A		生徒が必要としている情報を精選して適切に提供することができた。		
	12 5年次	基本的生活習慣を育成する。	挨拶を励行し、服装指導、清掃指導を徹底する。		B	A	服装指導、清掃指導は効果を発揮したが、挨拶の励行については課題を残す。
			基本的生活習慣を身につけさせ、遅刻をさせないとともに、話をしっかりと聞く態度を養う。		A		授業や集会では、落ち着いてよく話を聞いている。遅刻者の増加も見られない。
生徒との面談を定期的に行い、生徒理解や生徒の心の悩みを把握する。			B	年どの教員もどの生徒に対しても丁寧に行っている。頻度については課題を残す。			
ICTを活用し、情報の共有を図ることで、自主的・利他的に行動できる生徒を育成し、志の高い集団形成を図る。			A	授業の特性によって使用頻度に差がある。			
学習習慣と基礎学力を育成する。		大学共通テストへの対応を念頭に、思考力を高める授業スタイルを積極的に導入し、応用・発展へと広がりのある授業を展開する。また、効果的に課外を実施し、国公立大学の二次試験に対応できる論理性・表現力を育成する。	B	授業研究中である。さらに、生徒個々が自走する工夫が必要である。			
		朝の小テスト、週末課題、模試等の実施による学習の習慣化および学力向上を図る。	A	11月より、小テストや週末課題の回数や量を減らし、「受けさせられている」という生徒の意識の変容を図っている。			
		学習時間の記録や保護者との情報の共有に ICT を活用し、集団としての学力向上を図る。	A	特に保護者との意思疎通に関して、ICTを活用することで業務の効率化が図られた。			
異文化理解と自己理解について考察を深める生徒を育成する。		修学旅行を通して、異文化理解を進め、異文化から自国の文化を再確認する。また、自分から異文化に対して発信する力を養う。	A	ベトナム修学旅行を通し、国際理解の視点が育成された。			
		最終年次に向けて、大学出前授業や進路講演会をとおして自己理解を深め、進路意識の向上を図る。	A	出前授業や進路講演会、OBOGガイダンスを通し、進路意識の大きな向上が見られた。			
13 6年次	規律と活力ある基本的生活習慣・学習習慣を育成する。	服装・挨拶・清掃・遅刻指導を徹底することで、基本的生活習慣や社会力を育成する。	B	A	概ね良好であったが、最後まで遅刻指導が必要であった。規則正しい、学習習慣と生活習慣の両立が必要である。		
		わかりやすい授業を展開し、授業を大切に作る雰囲気作りに努め、家庭学習の習慣化を図り、志望進路に対応できる学力を定着させる。	A		年次内で共通理解を深め、丁寧な進路指導が必要である。		

## 別紙様式2 (中等)

	生徒間、生徒と教師間の信頼感を醸成し、集団としての凝集性を高める。	主体的な学習集団を目指し、セルフスタディースペースやプライトホールの活用を促し、お互いに切磋琢磨する雰囲気醸成に努める。	A	HR・集会等で常に最上年次である自覚を持つことを意識させる。 全体をチームとして見ていくことが、進路指導の実現にもつながっていく。 年次集会のみならず、クラスや授業でも働きを積極的に行う。 学習面にばかり目がいきがちなので、将来を見通した職業観の育成も必要である。 切り替えを促し、環境設定を行っていく。 行事等縦割り活動のチャンスを活かし、後進の指導に当たる。
		担任および副担任との面談に加え、主任、副主任など年次職員との面談を行い、クラスの枠にとらわれず6年次職員団として生徒情報の共有を図る。	A	
	志高い進路意識の維持による進路実現を図る。	学年集会や進路講演会での講話をとおして、生徒の第一志望への意欲を維持させる。また、利他的に行動することを意識させ、集団で受験に向かう環境を作る。	A	
		LHRや総合的な学習の時間においては、将来への目標確認を行うことで、自らのキャリア観を意識させ、課外学習においては、質の高い学力の向上を図る。	B	
	最上級生としての自覚により、下級生に範を垂れる。	年度前半の学校行事や部活動に悔いなく取り組ませることで、最上級生としてのリーダーシップを発揮させる。	A	
縦割り活動をとおして、最上級生としての振る舞いを自覚させることで、並木中等の学風をつくる覚悟を促す。		A		
14 国語科	基本的な学習習慣の定着を図る。	学習ガイダンスを重視し、こまめに行うことで、学習の見通しを持たせ、計画的に学習しようとする態度を育てると共に、予習・復習の学習習慣を身につけさせる。	B	A 学年が上がるにつれて、予習、復習の習慣が定着しているように感じる。  TO学習を取り入れ、他学年の生徒から能動的に教わる、生徒が教えることを通して学ぶ機会を作ることができた。  提出課題の添削指導等を適宜行っている。担当者が変わっても継続的な指導ができるように心がけたい。  前期生は「話す」場を多く設定した。「聞く」ことについては、書きながらにならないよう、切り替えが必要である。  ちょっと見の授業について感想交換などを定期的に教科会でやっている。他学年の進度や様子も把握できるので、継続していきたい。  生徒による授業評価、特に自由記述のコメントを今後の授業に生かしていく。
		単元ごとに到達目標を提示し、段階に合わせた授業計画と評価計画を提示する。R80や小テストなどを活用し、生徒が学習内容を振り返ることができる機会を設ける。	A	
	読解指導の深化を図る。	論理的文章・文学的文章の読解法について解説する中で、幅広い分野の文章について根拠を明確に、客観的に読解できる力を育成する。	A	
		AL型授業展開をすることにより、他者との関わりの中での学び合いの機会を設けることで、読解力の向上を目指す。	A	
	「書くこと」の指導を徹底する。	「読むこと」や「聞くこと」と関連させながら、ノート指導を基本とし、書くことを通して思考をまとめる方法を学ばせるようにする。	A	
		各年次に合わせた添削指導を行うことにより、論理的文章表現力の向上を図る。	A	
	「聞く」態度の育成と適切な話し方を育成する。	正しく内容を理解するために、状況に応じて「聞く」、「聴く」、「訊く」の3種類の「きく」を使い分けられる生徒を育てる。メモを活用した聞き方についても指導を行う。	B	
		他者と話す場、発表の場を適宜設定し、場と内容に応じ、聞き手を意識した「話し方」を工夫しようとする態度を育てる。	A	
	研修機会の充実を図る。	研修会等に積極的に参加して、授業作りの参考になる情報を集めて活用する。	A	
		定期的な教科会を開くと共に、互見授業を行うことで年次進行に合わせた授業法の研究を行い、新たな指導法の構築を図る。	A	
		他教科の授業を積極的に参観し、指導法の工夫を取り入れる。	A	
	生徒による授業評価(授業満足度)肯定的評価80%以上を目指す。	生徒一人一人に寄り添い、個に応じた助言・指導を心がける。 生徒とともに教員も研鑽を積み、よりよい授業作りを常に意識する。	A	
15 社会科	6年間を見通した教科指導体制を構築すると共に、各時期において身につけるべき能力を明確にして授業実践を行う。	シラバスを活用し、観点別学習状況評価を円滑に実施すると共に、各年次での学習目標を明確に提示した上で実践を行う。	B	A 各観点の評価方法やテスト問題の作成について共通理解を図る。 各年次の特性について教員間の情報交換を密にして、基礎期から充実期、充実期から発展期へと学習の円滑な接続を図る。  教科会等で実践事例の共有などを行い、主体的・対話的で深い学びの実現に継続して取り組む。  授業を核として、各個人の課題に応じた個別最適な学び(家庭学習など)を実現できるように取り組む。  個別の要望について解決策を検討していく。
		相互授業参観などを通し、生徒の発達段階に応じた学習内容と方法を検討し、実践に生かす。 ・基礎期(中1～2) 課題を追究・解決する活動を重視する。 ・充実期(中3～4) 社会的事象を地理・歴史・公民分野の観点から多面的・多角的に考察し、その意義や特色、課題をとらえる。 ・発展期(中5～6) 進路実現に必要な学力を養成する。	A	
	生徒主体の授業の展開を常に意識し、学習意欲を喚起するための指導・評価の工夫と改善を図る。	・教科会での話し合いを生かしながら主体的な学びにつなげられるような学習課題の設定や発問の工夫を継続する。 ・ICTを積極的に活用し、課題探究に対する意欲を高めると共に、思考力や表現力の育成を図る。 ・自身の考えを論理的に記述したり表現したりするなど、言語活動の充実を図る。 ・TO学習やクロスカリキュラム学習などを取り入れ、学年や教科・科目の枠を越えて学ぶことで豊かな人間性を育む。	A	
		基礎的・基本的な知識及び技能を身に付ける取組 ・課題提出や小テスト、家庭学習の効果的な方法などの指導を通して基礎・基本の習得を図る。 ・課外授業や添削活動・模擬試験を有効活用する。	A	
	生徒による授業評価を生かした授業の改善を行う。	「生徒による授業評価(授業満足度)」肯定的評価80%以上	A	
16 数学科	基礎・基本の定着とともに、論理力を高め、応用力を育成する。	生徒が考えればわかる、やれば解けると思えるように、アクティブ・ラーニングを踏まえた授業展開やICTを活用した説明方法を工夫する。	A	A 導入の仕方や発問内容を工夫する。 基礎学力定着の重要性を説き自発的行動を促す。 年次ごとに課題を精選し、思考力を養う問題を作成する。 年次担当者間で意見交換の時間を十分に確保する。 学習進度に応じて入試問題の提示や探求力を養う。 身近な導入から好奇心を喚起する。 視覚教材の利用を積極的に行う。 6年次での習熟度授業を充実させる。 少人数、習熟度の授業を実施する。 必要であれば小テスト・追試を実施する。
		定期的な課題を与え、家庭学習を充実させ、基礎・基本の定着を図る。	B	
		定期テスト、実力テストの問題検討に十分時間をとり、基礎・基本の定着、論理力、応用力の育成までを目的とした問題を作成し、出題する。	A	
		生徒の学力に応じて学習内容を精選し、深化的・発展的な内容の学習も行う。	A	
		SSHの取り組みを踏まえ、他教科と協力して教科横断型の授業などの数学的活動の充実を図り、探究力・論理力の育成を目指す。	B	
	学習意欲を喚起する指導を工夫する。	課題や課題提示の仕方を工夫し、生徒たちの知的好奇心を喚起する。	A	
		ICTを積極的に活用し、数学的な思考力・表現力の育成を目指す。	B	
		きめ細かな指導をするため、習熟度別学習・少人数学習を工夫改善する。	A	
	生徒の能力差をふまえ、個に応じた指導を充実する。	生徒の実態を把握し、個に応じた助言・指導が行えるようにする。	A	
生徒の実態を把握し、個に応じた助言・指導が行えるようにする。		A		

## 別紙様式2 (中等)

	生徒による授業評価を生かした授業の改善を行う。	「生徒による授業評価 (授業満足度)」で肯定的評価 60%以上を目指す。	A		更なる高評価を目指す。	
17 理科	基礎力の定着、学力の向上を図り、探究の過程を学ぶ効果的な学習法・指導法を開発する。	オリジナルプリントや小テストなどを活用して、時間を効率的に使い、演習時間などを多くとり、基礎学力の徹底を図る。	A	A	知識問題を落としてしまっている生徒のフォロー実施	
		アクティブ・ラーニングやICT活用、TO学習等により生徒の主体的学習態度の育成を図るとともに、教科会で指導法を共有することで指導力の向上を図る。	A		課題解決型の授業の拡充	
	SSH第3期目の推進及び第4期目に向けた、つくばという立地を生かした授業研究の充実を図る。	つくばの研究所や施設を利用した地域との連携、筑波大学などとの高大連携により、生徒の探究力・論理力の育成を図る。	A		連携による学びの深化	
		ICTや外部講師を活用した出前授業等を研究する。	A		カリキュラムに応じた内容の採用	
	6年間の系統的なカリキュラムを実践・修正する。	SSHで開発してきたSS科目により、高校教科書の一部を先取りして学習し、スパイラルをいかしたカリキュラムを実践し、前期から後期への接続の体系化を図る。	A		学習進度・習熟度に応じて入試問題の提示やその添削などを行う	
		同じ科目を教える教科担当同士が密に連絡を取り合い、スムーズに接続できるようにする。	A		分野ごとの連携強化	
生徒による授業評価を生かした授業の改善を行う。	「生徒による授業評価 (授業満足度)」で肯定的評価 80%以上を目指す。	A		定期的な実施		
18 英語科	総合的なコミュニケーション能力を育成する。	言語の使用場面を考え、4技能のバランスのとれた言語活動を行い、オーセンティックな題材や視聴覚教材を取り入れた授業を展開する。	A	A	4技能のバランスに配慮する。	
		授業導入時や展開時における日常会話や音声表現活動 (自己表現活動) を実施する。	A		実践的なコミュニケーションを意識する。	
	基本的な英語力を構築する。	自主学習ノートの定期的な提出やこまめな小テストの実施・評価と共に、効果的に生徒へフィードバックを行う。	A		生徒に応じたフィードバックや支援により、よりよい英語学習へとつなげる。	
		辞書の活用を奨励し、語彙を増やすことを目的とした諸活動を実施する。	A		電子辞書や辞書アプリの使用による効果をそれぞれ検証。	
	英語を用いた言語活動を積極的に進める力を育成する。	プレゼンテーションやディベート活動といった発展的な言語活動を通して、自分の意見をきちんと英語で表現できる力を養う。	A		活動をより効果的なものにするための工夫をする。	
		教科書だけでなく様々な補助資料を用いて異文化理解を進める。	A		前期から後期へのつながりを意識した進捗表作成。	
	国際的な視野を広げる言語活動を構築する。	ALTや留学生とのコミュニケーション活動を通して、様々な考えに触れる機会を設ける。	A		教材の選定・充実。	
		プレゼンテーションフォーラムなどに積極的に参加し、意欲的に言語活動に取り組む機会を設ける。	B		3人のALTのより効果的な活用方法を研究。	
	6年間を見通した英語科としての指導形態を確立し、発展させる。	教科会や「ちょっと見週間」等を通して、各年次における授業の検証と継承を行い、並木英語科スタンダードを確立・発展させていく。	A		先取りメリットを生かすことができるよう、6年間の指導内容と教材を調整する。	
		公開授業等を通して、本校での授業形態を外部に向けても発信し、県内の英語教育のリーダー的役割を担っていく。	A		授業や課題・課外を含む並木の英語教育の検証と更なる発展。	
生徒の声を反映させた授業評価を生かした授業内容、授業環境の改善を行う。	「生徒による授業評価 (授業満足度)」肯定的評価 80%以上	A		生徒が目指していることと教師が目指していることを一致させる。		
19 芸術科 (音楽)	音楽表現における基礎的能力の向上を図る。	表現活動に必要な知識と技能の定着を図る。	A	A	今後も授業冒頭を用いて基礎事項の確認を行う。	
		反復練習を重視し、表現に必要な技能や能力を養う。	A		今後も反復練習を授業冒頭に欠かさず行う。	
	幅広い表現活動を充実する。	グループ活動・全体共有の時間を効果的に設定し、表現の多様性を認め尊重し、自らの表現に生かす能力を養う。	A		グループで音楽表現を試みる場面を積極的に設定する。	
		共通事項や歴史的背景など、幅広い切り口から音楽を知覚する能力を養う。	A		音楽史からのアプローチを今後は強化する。	
	ポイントを押さえた鑑賞教育を充実する。	音楽の諸要素と、それが何を表現しているのか考え、表現する能力を養う。	A		諸要素を見ながらも、全体を俯瞰しながら鑑賞をする。	
		基礎知識を用いながら意図をもって創作を行い、発表する活動を行う。	A		言葉や音素材の響きを感じとりながら創作活動を行う。	
生徒の声を反映させた授業評価を生かした授業内容、授業環境の改善を行う。	「生徒による授業評価 (授業満足度)」肯定的評価 80%以上	B		肯定的評価が 80%以上になるよう、達成感を味わえるような単元計画を心がける。		
20 芸術科 (美術)	基本的な美術の能力を育成する。	体験活動を充実させ、美術の基礎知識を身につける。	A	A	今後も基礎知識が定着するような授業を展開する。	
		色彩の効果を考え構想を練り、材料や用具の生かし方を考え、工夫してあらわすことを意識づける。	A		今後も基礎知識が定着するような授業を展開する。	
	柔軟な表現活動を育成する。	豊富な知識や表現方法を能動的に活用する喜びを養う。	A		生徒が自ら描きたいイメージを想像できるようにする。	
		自他の価値観を認め、内面的なイメージを豊かに表現する力を持って表現活動する。	A		クラスメイトの作成した作品を鑑賞したりして、他人がどのような作品を創っているか知る時間を増やす。	
	鑑賞活動の充実を図る。	自国や外国の美術文化の特徴を理解し、優れた伝統美術に関心を持つ。	B		鑑賞活動の時間を増やし、多様性に気づけるようにする。	
		作品や作家の言葉から美術の多様性に気づき、自分の表現に生かそうとする態度を養う。	B		鑑賞活動の時間を増やし、多様性に気づけるようにする。	
	美的体験を日常生活に生かす。	実生活に活用できるような、情報やイメージを効果的に伝えるデザインする力を育てる。	A		身近なところから素材や造形をイメージできるようにする。	
		絵画や彫刻・工芸などを暮らしに役立てる感覚を身につける。	A		今後も身近な素材を利用することを心がける。	
	生徒の声を反映させた授業評価を生かした授業内容、授業環境の改善を行う。	「生徒による授業評価 (授業満足度)」肯定的評価 80%以上	A			肯定的評価が 80%以上になるよう、達成感を味わえるような単元計画を心がける。
	21 保健体育科	体力と精神の調和的発達を図る。	学習活動への積極的な参加を通して体力の向上と精神面での成熟をめざす。		A	A
体づくりのための効果的な運動を実践する。			A	体づくり運動で体力を高める運動の取り組み強化と、各種目の準備運動時に補強運動の		

別紙様式 2 (中等)

					導入
		自己の課題に応じた運動を実践する能力を養う。	A		体力テストの結果を基に、自己の状況を把握させる。
		運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにする。	A		個々の能力に応じた運動で楽しめるルール作り
	一人一人が豊かなスポーツライフを実践できるようにする。	スポーツに関する知識を身につけ、「するスポーツ」だけでなく「見る」「支える」ことの意義や楽しさを体験する。	A		前期生から多くの種目を経験させ、指導も教員の専門種目を生かした担当制を導入。後期生(5.6年次)での種目選択。
		様々なスポーツのルールを理解させる。	A		段階的な指導を継続し、ルールの定着を図る。
	スポーツマンシップを育成し人間力を向上させる。	規律ある行動を繰り返す。	A		4月の授業時に全学年、集団行動を徹底して指導し年度のスタートをきる。
		あいさつを励行する。	A		授業開始・終了、ゲーム開始・終了時における挨拶の徹底
		マナー、ルールを尊重することを常に意識させる。	A		常に声かけを行い、フェアプレー精神を常に意識させる。
	生涯を通じて健康に留意しながら安全に過ごすための、バックボーンとなる知識や考え方を習得させる。	心身の発達と心の健康について探究する。	A		心身相関の理解
		健康と環境、障害の防止について探究する。	A		健康を保つためには、多面的に環境を整備していくことが大切であることを理解させる。
		健康な生活と病気の予防について探究する。	A		各自の生活習慣や食習慣を改善し、規則正しい生活習慣を身に付けさせる。
	生徒による授業評価を生かした授業の改善を行う。	「生徒による授業評価(授業満足度)」で肯定的評価80%以上を目指す。	A		発達段階や個々の能力に応じた指導等を授業展開を工夫する。
22 技術・家庭科 における技術 分野	科学的な理解と技術の習得を図る。	図や表を用いて、他者に説明する活動を通して、知識の定着を図る。	A	A	継続して、他者の説明を理解して、さらに弁論的対話ができるようにしたい。
		知識で得たものを実践、応用することで、技能の習得を図る。	A		知識を獲得した後、様々な機会を得た知識を活用する実践的授業を継続していく。
	思考力・判断力・表現力等を育成する。	生活の中で問題を見つけ、論理的に考えて解決まで導けるよう授業を展開する。	B		課題を見つけ、解決策を考え、理論的に考えることを継続していく。
		10年後、20年後の未来を意識した授業を展開する。	A		Society5.0に焦点を当て、未来を意識した授業を促していきたい。
	学び向かう人間性を喚起する学習指導を充実する。	グループ活動を取り入れた教え合い・伝え合い授業展開から、協働的な学びを行う。	A		プレゼンの作成において、協働的な学びを継続していく。
		実習や改題解決的な学習を取り入れ、最後までやり遂げようとする主体的な学びを行う。	A		課題に対して、学びを調整し粘り強く取り組むように努める。
生徒が主体的に学ぶ意識をもてるようにする。	生徒による生徒の主体的な取り組み評価で肯定的評価80%以上	A	生徒の課題に対する提案について、肯定的評価が90%を超えたので、継続していく。		
23 技術・家庭科 における家庭 分野	生徒の学習意欲を喚起する。	生徒の興味・関心に応じ、知的好奇心を喚起する学習内容を工夫する。	A	A	スライド等の工夫や視聴覚教材を効果的に取り入れ生徒の興味関心が持てるように工夫してきたい。
		実験や実習を効果的に行い、体験的に学べるようにする。	A		短時間でできる実験や実習を工夫し授業に取り入れていく。
		グループ活動を取り入れ、自主性や協調性を伸ばすとともに、楽しい授業の実施を工夫する。	A		グループで教え合いながら実習に取り組むコロナ禍で実施できる活動について工夫し、取り入れて実施することができた。
	科学的な理解と技術の習得を図る。	他教科との関連を図りつつ、生活を科学的にとらえる授業を展開する。	A		さらに研修を深め、他教科との関連を意識したして授業を実施する。
		基礎的・基本的な技術を習得できるような実習を行う。	A		短時間コロナ禍で効果的な実施できる実習について、更に工夫していく。
	生活の場での実践力を育成する。	生活の中で、学んだことを生かす態度を育てる。	B		SDGsと学習内容を関連付けた授業を展開することで学習した内容を生活の中で生かす態度を育てたい育てる。
	新教育課程にあった教材の研究を行う。	「生徒による授業評価(授業満足度)」肯定的評価80%以上をめざし、よりよい授業作りを常に意識し教材研究を行う。	A		発達段階や個々の能力に応じた実習ができるように研究していきたい指導等を授業展開を工夫する。
24 情報科	ICT活用及びコミュニケーション能力を育成する。	実習の中で基本的なビジネス用ソフトウェアを利用する。	A	B	現行通りで問題なし。
		情報の検索、加工、発信という基本的なICT活用プロセスを扱う。	A		現行通りで問題なし。
		グループワークや他とのコミュニケーションを重視した実習を行う。	B		よりよい演習の方法の検討
	情報倫理を育成する。	知的財産権について、いろいろな場面で扱う。	C		情報モラルや法律などに触れる機会を増やす

別紙様式2 (中等)

		情報倫理について、自分で判断できるように指導する。	A		現行通りで問題なし。
		情報モラルを重視した指導を行う。	A		現行通りで問題なし。
	他教科や外部組織との連携を図る。	学校行事・課題探究とリンクした実習を取り入れる。	C		学習カリキュラムの検討
		他教科や外部組織との連携をいろいろな場面で試みる。	A		現行通りで問題なし。
	生徒が主体的に学ぶ意識をもてるようにする。	生徒による生徒の主体的な取り組み評価で肯定的評価 80%以上	C		グループワークや個人学習の活動時間の確保
25 道徳	望ましい生活態度を身につけ、互いの個性を尊重し、自主的・自律的に行動しようとする態度を育成する。	生徒の実態や学校行事、教科間の関連を把握した上でその実態に応じた題材を提示することに努める。	A	A	題材を精査していく。
		道徳に関する活動の中で考えたことが、学校生活のよりよい人間関係の構築や円滑な生活の維持に生かせることを実感できるようにする。	A		道徳と生活を結びつけるよう、さらに内容を精査する。
		公民科をはじめとする各教科の授業やホームルーム活動において、学級やグループ内で意見交換や話し合いの場を設け、他者の意見を基に自己の考えを深化できるようにする。	A		自己の考えを深化させる方法をさらに実施する。
		授業で考えたことを、従前の自己の生活や考え方と比較し、今後の生き方に反映できるように振り返る場面をつくるようにする。	A		今後も自己の考え方、生き方と対峙できるよう計画する。
26 学級活動	学校全体や、各年次、各クラスで、生徒主体の活動の促進を図る。	生徒会主催の全校集会や、生徒主体の年次集会を開催し、生徒自らが積極的に企画運営できる能力を育てる。	A	A	年間を通して、生徒主体の集会等を行っていく。
		学級での一人一役の実践と工夫を図る。	A		引き続き実施する。
	集団や社会の一員として望ましい人間関係を構築し、よりよい生活環境を築こうとする態度や自己を生かす力を養う。	校外学習等において、生徒主体の企画・運営をする能力を育てるとともに、集団の一員として望ましい人間関係を構築できる能力を培う。	A		生徒が企画・運営する活動を積極的に行っていく。
27 総合的な学習の時間	自分の興味あることについてのテーマを設定し、そのテーマに基づいて調べ学習を展開することで、情報収集能力や情報活用能力、考察力、プレゼン力を育成する。	「かえでツーリスト」というテーマのもと、自分の住んでいる地域を実際に歩いたり調べたりなどして、地域再発見の機会を設け、情報収集能力や情報活用能力、プレゼンテーション能力（発表資料作成）を育成する。（1年）	A	A	テーマについて情報を収集する能力、調べた内容を深める能力、伝える能力を総合的に高めることができた。
		「ミニ課題探究Ⅰ」において、「クエスチョンX」を実施し、日常の中で良質の問いを考えるトレーニングを行い、多面的な視点で世界を眺め、自分だけの問いをもち深めることができる資質を養う。（1年）	A		問いを見つけ出し、深める行程を経験し、日常生活の中に潜む疑問や学問に気づくことができた。
	テーマを追究し、課題を解決する課程において、課題発見能力、課題解決能力を育成する。また、自分の将来の夢や職業を意識し、進路実現にむけて行動する力を育成する。	ミニ課題探究Ⅱにおいて、「クエストエデュケーション」を行い、企業から出されたテーマについて探究活動を行う。この活動において、探究の過程の手法を学び、分析力や表現力、論理力を育成する。（2年）	A		問いに対する企画案を考え、問いに対する問いを生成する能力を身につけるとともに、プレゼンテーション能力の向上も伴うことが出来、クエストカップ全国大会へ出場することができた。
		「キッズニアかえで～将来の職業について考えよう～」というテーマのもと、自分に適した職業を知る活動や職業調べを通して、自分の将来の夢や希望を意識し、実現にむけて行動する力を育成する。（2年）	A		職業調べにとどまらず、期間において金融教育の初歩を学習するなど、幅広く学習できた。
	課題研究を通して、グループで学び合う力、テーマ設定能力、データを分析・考察する力を育成する。また、自分の将来や卒業後の進路に向けて行動する力を育成する。	「かえでユニバーシティ～卒業後の進路について考えよう～」というテーマのもと、大学の学部・学科を調べる活動や文化祭におけるキャリアアトラクションの企画立案・実践を通して自分の将来や卒業後の進路に向けて行動する力を育成する。（3年）	A		総合的な学習の時間を通じて、仲間と楽しく協同的に「学部学科」について学ぶことができた。これを文化祭の中で学びを表現できた。
		「ミニ課題研究Ⅲ～地域の社会問題を解決しよう～」というテーマのもと、インタビュー、体験活動、フィールドワークやレポート作成を通して、グループで学び合う力、テーマ設定能力、データを分析・考察する力を育成する。また、広島・京都(東北地方)の研修旅行を通して地域の社会問題を見つめ、訪問都市の事例を地域の活性化に還元できるような力を培っていく。（3年）	A		地域に目を向け、問題点を考えた。様々な市町村の課題や実際にフィールドワークを実施することで、現地調査からレポートを作成することができた。
	6 年教育における諸活動をとおして、自らの生きる道を、主体性をもって選択し決断できる能力を育成する。	大学出前授業、進路講演会、文理選択説明会、大学見学会、卒業生との相談会などの進路学習を充実させ、進路に対する視野の拡張と難関大学への意識を高める。（4年）	A		実際に行くことはできなかったが、オンラインで可能な限り講演会、出前授業、卒業生によるガイダンスを行うことができた。
		道徳の授業を通して、職業観や生き方に対する意識を高める。（4年）	A		各担当者がそれぞれの視点で、職業観・生き方について考える授業を行うことができた。
「異文化理解と自己理解」というテーマで、修学旅行と語学研修を実施し、他者を理解し、多様性を認めると共に、自己の文化を発信する力を養う。（5年）		A	多様性の理解の深化のために、さらに内容を検討する。		
自己の進路について、多方面から情報を集めることで具体的な進路を見いだせるような一助とし、終年次に向けて意欲の向上を図り、進路実現を目指す。（5年）		B	進路実現のためにさらなる情報収集を図る。		
「進路実現と主体的な生き方の模索」というテーマで、進路情報の収集を進める一方、進路講演会などとおして、その都度自己を見つめ直す機会も設ける。（6年）		A	適時に収集した情報を十分に生かし、進路実現に生かした。		
並木中等での6年間の総括をすべく、時期により作文やレポート作成を行い、振り返りと将来への展望を促す。（6年）	A	目標と現状を比較しつつ、PDCAにかなう取り組みができた。			

※ 評価規準： A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない